

RPJ News

2023年 新年号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行

発行責任者：志井田美幸 / 長野敏宏 / 仁木守

E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>



内 容

* 2023年を迎えて

- 2023年を迎えて 理事長 正光会御荘診療所 長野 敏宏
- うさぎ年の夢 協会理事 大分県寺町クリニック 太田 喜久子
- 新年のご挨拶 協会理事 社会福祉法人町にくらす会 志井田 美幸
- 新年のご挨拶 協会理事 済生会なでしこメンタルクリニック 白石 弘巳
- 新年のご挨拶 協会理事 尾道のぞみ会 高垣 孔幸
- 新年を迎え 協会理事 社会福祉法人ひつじ 藤田 安
- 三十にして立つ 協会監事 エスポアール出雲クリニック 高橋 幸男
- 新年を迎えて 協会監事 正光会 渡部 三郎
- 新年のご挨拶 協会実行委員 NPO 法人むげん 藍田 寿弘
- 2023 新年のご挨拶 協会実行委員 社会福祉法人ひつじ 大田 佳代
- 新年のご挨拶 協会実行委員 株式会社つがるねっと 貴田岡 武
- いよいよ始まります 協会実行委員 エスポアール出雲クリニック 形部 周平
- 新年のご挨拶 協会実行委員 尾道のぞみ会 橋本 周治
- 新年のご挨拶 協会実行委員・事務局 正光会御荘診療所 中野 良治

* 2023 年を迎えて

○ 2023 年を迎えて

理事長 正光会御荘診療所 長野敏宏

皆様、今年もよろしくお願ひいたします。

昨年は COVID-19 を乗り越えるきっかけをつくらうとした年でした。決して簡単ではないことを痛感しています。これだけのエネルギーを注ぐ必要がある課題の中には次の時代を創るヒントが限りなく込められていると信じていて、まっすぐ取り組んでいきたいと考えています。ただ、年始の感染爆発により、すっかりみかけなくなっていたはずの新型コロナウイルス性肺炎や重症化する方が次々に出ていますので、当面、対応に終われる日々が続くのかなと思います。

精神医療保健福祉に関しても昨年はひとつの転機になる年だったと考えています。精神保健福祉法、障害者総合支援法の法改正をととも前向きに捉えています。現場の私たちが、これらをどう理解し、どう実践を続けていくか、未来を築く上でとても大切だと思います。長年のどうどうめぐりから、物事を斜めからみる傾向が強くなっている印象ですが、それでは前に進みません。協会としても。しっかりと芯をとらえて、自分たちの社会を創るつもりで何事にも取り組みたいです。

ご指導よろしくお願ひします。

○ うさぎ年の夢

協会理事 大分県寺町クリニック 太田 喜久子

明けましておめでとうございます。

今年の夢はこれまでの自分の歩みを後に来る人らに繋いでゆくこと、そして自分の健康の再開発です。30 年間クリニックが継続してきて、この 10 年間の多機能型精神科診療所という活動への参加は、自分に名前が付いたような安心感を持つことが出来ました。

外来だけに来ているニートもどきの人、長年の引きこもりの方、入退院を繰り返している人らに届ける医療と生活支援はそれらの人が主体的に生きている道へとつながる包括的な支援です。

今年は当地で研究会を持つことになり、谷中先生と仁木美知子さんとの出会いがこの活動の基盤であり、お二人への感謝で日々歩んでいます。

個人的には 3 年前信仰の山・南アルプスの七面山に参拝し、登山心がよみがえり今年には新年の久住山に登頂、雪のある道を 50 年ぶりにアイゼンをつけて歩きました。より難易度のある岸壁や冬山はもうできませんが山頂を目指す山登りは出来る。筋力の落ちた足は週 1 回のリハビリを 1 年間続けて山道が歩けるようになり、リハビリを続け健康に活動したい。今年は醒めることなく 2 つの夢を歩んでゆきたい。

最後になりますが昨年感動した協会のセミナーを今年も期待しています。

○ 新年のご挨拶

協会理事 社会福祉法人町にくらす会 志井田 美幸



明けましておめでとうございます。

昨年はオンラインでしたが、研修会を再開できたことは大変ありがたく嬉しく感謝申し上げます。

今年も継続できたらと思っております。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○ 新年のご挨拶

協会理事 済生会なでしこメンタルクリニック 白石 弘巳

新しい年が始まりました。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年暮れに精神保健福祉法などの改正案が国会を通りました。保護者制度を廃止した前回の法改正から約 8 年が経過し、今回の改正では家族等が同意しない場合、市町村長同意で医療保護入院できるようになることや、医療保護入院患者に地域援助事業者を紹介することを義務化すること、医療保護入院の期間を定めること、など前回法改正時の厚労省検討委員会で私が申し上げていたことが実現する方向となりました。私見によれば、制度の改正はまだ途上で、医療保護入院の家族同意を廃して精神医療審査会の承認に切り替えること、さらに、一定期間経過した後医療保護入院を続けるのであれば、入院先の病院を本人等が定めることができる制度を設けるところまで行きついてほしいと願っています。

また、国は精神科医療機関で行われている隔離や拘束を減らす(止める)ことを強く打ち出しています。真に治療的な環境とはどういうものか、当事者の意見も容れてイメージを具体化し、今はやりの言葉で言えば、実装化していくことが求められています。

4 月から、少し勤務の場所が変わる見通しですが、体が言うことをきく間は、行ってきた活動を続けていきたいと思っています。

○ 新年のご挨拶

協会理事 尾道のぞみ会 高垣 孔幸



新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年も更なる事業内容の充実と福祉サービスの質の向上に努めてまいります。今後も皆様のより一層のご支援を賜りますよう、心よりお願ひ申し上げます。

○ 新年を迎え

協会理事 社会福祉法人ひつじ 藤田 安

新年を迎え、気持ち新たに頑張りたいと思っています。「まだやらねばならぬことがある。」この言葉を持ち続け、気持ちを引き締めもうひと頑張りと思っていますところ。

ただ、体の鞭打って走りたくも、すっかり老人になってしまった私には、いくら気持ちを高めても、空回りするばかり。そんな私ではありますが、御身大事に守勢になることだけは避けたいと思っています。皆様方のご活躍を祈念し、歩みを緩めず、出来ること精一杯の頑張り、不可能を可能にする努力を怠ることなく前進していきたいと思っています。

すっかりご無沙汰で、音なしの構えになってしまったように伝わっていると思いますが、しぶとく「足りないもの」を作り続けようと思っています。

今年も宜しくお願ひ致します。



○ 三十にして立つ

協会監事 エスポアール出雲クリニック 高橋 幸男

エスポアール出雲クリニックを開院したのは1991(平成3)年4月のことですから、すでに30年が過ぎました。30周年記念をどうするか、などと話すなかで、バナナ農園づくりの話が盛り上がり、クラウドファンディングを立ち上げた折には、協会の皆様をはじめ全国の多くの方々のご協力を得ることになりました。しかし、よくも悪しくもコロナ禍にみまわれ頓挫することになり、ご協力をして下さった方々には大変申し訳ない結末になりました。遅ればせながらこの場を借りて深謝いたします。しかしその流れは途切れることなく、菌床しいたげづくりを皮切りにさらなる夢を追って展開しています。しいたげづくりはいよいよ佳境に入ってきましたが、このあたりは協会実行委員の形部氏が中心になってやってくれていますので、彼からのレポートを見ていただければと思います。その先の夢もまた広大だと思っていますので今後の展開を見守って頂ければと思います。

さて、表題に書きました「三十にして立つ」は、言うまでもなく孔子が論語のなかで「三十歳頃には、精神的に自立して、独自の立場に立つようになる」という意味合いで述べていることばです。

当院は開院した折は、夢を持ちつつかなりの独自性を主張してスタートしたと思います。しかしわたしが能天気で運営してきたことに尽きますが、30年が経っていろいろほころびも出てきました。“エスポアール”のブランドで、スタッフは豊かな理念を掲げて毎日いい医療やケアを行っています。しかし、前述したしいたげ栽培の話などと矛盾するような言い方ですが、日々の医療やケアの実践においては、多くのスタッフが夢とか希望を語らなくなった気がします。ある意味内弁慶になってしまいました。ひょっとしたら慢心かもしれません。これではいけません。菌床しいたげづくりを突破口に、今年は日々実践でも一大改革を試みたいと思っています。「三十にして」あらたに夢を持って「独自性」を主張したいと思っています。このあたりの詳細を書く紙面はありませんので、先送りしたいと思っています。

もう一点、勝手なことを述べますが、わたしがずっと代表をつとめてきました当地の“ふあっと”も、少し長いものの当院とほとんど同じ時間の歴史があります。しかしこれまでの出雲の精神保健福祉の歴史に果たしてきた役割はひとまず終了したのでないかと思っています。これは活動を止めるという意味ではありません。ある意味、“ふあっと”にとっても「三十にして立つ」必要があると思っています。これについても先々述べていきたいと思っています。

わたしは3月で75歳になりますが元気です。

協会の皆様、コロナやインフルエンザに負けずに頑張りましょう。

今年も宜しくお願い申し上げます。

○ 新年を迎えて

協会監事 正光会 渡部 三郎

みなさん、あけましておめでとうございます。

分断の状況が長くなると、つながり、わかちあうことがありがたく、身に沁みます。

笑顔で出会える日をたのしみに、もうひとがんばりです。

今年もよろしく願いたします。



○ 新年のご挨拶

協会実行委員 NPO 法人むげん 藍田 寿弘

新年あけましておめでとうございます。

今年もよろしくお願いいたします。

昨年はコロナ渦にあってもリモートによる研修が開催され、全国の皆さんと共に学びあえたこと、協会ニュースで会員の皆さんと共有できたこと、更に、職場でも災害について地元の現状に照らし意見交換を行えたことなど、協会活動の意義を改めて思いました。

新年 1 月 4 日に毎年恒例の書初大会を行いました。書初めに込めた思いを一人一人語ってもらった後、張り出された書初めに投票するのですが「ラブアンド♡ピース」に得票の多くが集まりました。

愛と平和への願いを皆で確認した新年第一目となりました。

今年も、皆さんにとりまして良い 1 年になりますこと心よりお祈り申し上げます。



○ 2023 新年のご挨拶

協会実行委員 社会福祉法人ひつじ 大田 佳代

あけましておめでとうございます。

年末のご挨拶を書けないままに新しい年を迎えてしまいました。

コロナ感染拡大を理由にしながら、自分の生活圏内から出ることがない生活を送っています。行動範囲とともに視野が狭くなっていると感じながら、毎日が慌ただしく過ぎていきます。今年もまたいそがしく動く1年になりそうです。

みなさま、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

○ 新年のご挨拶

協会実行委員 株式会社つがるねっと 貴田岡 武

皆様、新年明けましておめでとうございます。

年末・年始から大雪など寒い日が続いていますが、皆様お元気にお過ごしでしょうか？

コロナウイルスもつきあい始めて 3 年目、いまだ収まる様子は見られませんが、コロナの陽性者が出ても以前ほど慌ただしくなく対応できるようになり、生活様式の変化も慣れてきた感じがします。

会社もたくさんの方々のおかげさまで 5 年経過することができました。

私の机はいつもごちゃごちゃなのですが、今は農福と SDGs とコミュニティとウクレレの本が乱雑に置いてあります。たぶんこのことに興味があり、今年(今)はここを中心に進んでいきたいのだと思います。

今年も小さな変化を見逃さず、できるだけ丁寧にみんなでだれもがごく当たり前の生活ができる町作りを目指し、つながりを広げて行けたらと思います。

皆様今年も宜しくよろしくお願いいたします。



○ いよいよ始まります

協会実行委員 エスポアール出雲クリニック・エスポアールファーム 形部 周平

皆さま、新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

さて、いよいよエスポアールファームの菌床しいたけ栽培が始まります。今月と来月に 1 万菌床ずつ搬入して合計 2 万菌床となり、年間を通じては菌床の入れ替えをしながら 3 万 5 千～4 万菌床を栽培する予定です。“バナナ”から始まった我々の構想(障がいの有無に関係なく誰もが働きやすい職場づくり)もようやく一歩目を踏み出せるところまでできました。

この間、様々なことがありました。思い返せば“なぜ自分が”、“なぜ自分だけ”と思うことばかりで、とにかく目の前のことを一つ一つ解決していくしかないといつも心を奮い立たせていました。けれどもそうした思いは昨年末、空っぽになったわが家の酒瓶にたくさん詰め込んで、今はようやくここまでこられたと嬉々たる思いで新年を迎えています。

前号でもふれましたが、エスポアールファームの菌床しいたけ栽培の計画には大小の変更がありました。なかでも一番大きかった点と言えば、場所(農地)を変えたことでしょう。もともと大社町中荒木というかつてはぶどう栽培が活発な地域(今は殆どが耕作放棄地)で、バナナ栽培を目指した農地でしたし、なにしろ 5,000 m²ありましたから、しいたけ栽培をしつつ他の野菜や果樹にも挑戦したいと考えていました。ところが、その農地近辺には“畑かん”という川の水を汲み上げる設備しかなく、菌床しいたけ栽培に必要な水道設備(飲料水と同等の水質が求められることから)がありませんでした。建設会社によると当地に水道を引き込むには、650～700 万円程度の費用がかかると言われた上に、県や市の補助金、融資からもその費用は対象とならないと言われ、様々なことを検討しても結局解決策は見つからず、これも本当に苦渋の決断となりました。ただ、その変更先となったのは、当地から車で 2～3 分の距離にあり、もともとエスポアール出雲クリニックの就B事業所で始めた菌床しいたけ栽培のサポーターになっていただいた若い農家さんの紹介でした。補助金の申請を進めている最中に場所をまた選びなおす猶予もなく、そこでお世話になることにしました。

そこからは、農業用パイプハウスの解体作業(昨年 2～11 月まで)を続けながら、県や市への補助金申請に始まり(4～5 月)、出雲市認定農業者の資格取得(6 月)、新たな農地の圃場整備やハウスのU字溝の工事(われわれで出来る作業は参加したい)(8 月)建設工事の入札(8 月)農作物栽培高度化施設の申請(9 月)、フォークリフトの資格取得(9 月)JAとの融資相談(2 万菌床の栽培計画)、地域の方との関わり等がありました。どれもこれも初めての事ばかりでとても大変でしたが、それでもやり遂げたのは一緒にハウスの解体作業を回っていた戦友と、自分自身は当院での相談業務等を最小限に抑えていましたからそれをカバーしてくれた外来や相談支援のスタッフの協力、それにその日に出会ったスタッフから「今日はどこですか?」「見るたびに黒くなっていますね。」「ちょっと痩せられましたよね。」等の励ましの声掛けをしてもらおうとつい嬉しくなり、今日も、また今日も頑張ろうと思えたからでした。ここまでこられたのは自分一人の力じゃないと正に骨身にしみて感じました。

そして、いよいよ栽培が始まりますとひと月に約 3t(1 日に約 120kg)から多い時で 4tの収穫があり、これもまた大変です。エスポアール出雲クリニックの就B事業所は『だんだん(出雲弁でありがとう)』と言いますが、メンバーさんは意欲が高く、手技も慣れておられますから是非とも力になっていただきたいと期待しています。

さて、ようやくと始まるころですが、まずは栽培を軌道にのせ収支の安定を図ること、そして多くの人がいきいきと働ける場所になるよう作業を確保することが当面の課題です。われわれの構想(障がいの有無に関係なく誰もが働きやすい職場づくり)は些かの揺らぎもありませんが、焦らずにじっくりと進めて行こうと思います。

ちなみに、バナナを目指した農地は『だんだん』のメンバーさんが引き継ぎ、サツマイモ、枝豆、にんにく、

玉ねぎ、春菊、小松菜、大根等の栽培を始めました。規模としてはまだ全体の 1/6 程度でしょうが、今後に期待しています。また、エスポアールファームも廃棄する菌床を使った(なにしろ年間で約 3 万 5 千~4 万菌床の廃棄があります)第 2 の事業を模索検討中ですが、なにやら楽しそうなことを思っています。その詳細は、また RPJNews 等を通じて紹介いたしますが、乞うご期待下さい。

エスポアールファームの菌床しいたけ栽培を必ず成功させます。将来的にはエスポアール出雲クリニックと相乗効果を成して、地域に住まわれる様々な生き難さを感じておられる方たちが今よりも少しでも豊かな暮らしができると信じています。

追伸:ハウス内、全景(ハウス 2 棟、出荷調整棟)、U 字溝(自力)写真を添付いたします。ハウス内の写真を見ますと薄くピンクがかっていますが、自分の趣味ではなく発砲ウレタン(断熱効果の優れたもの)の吹き付け効果によるものです。



○ 新年のご挨拶

協会実行委員 尾道のぞみ会 橋本 周治

あけましておめでとうございます。

つい先日、地元紙で「障害者雇用の代行業者急増」という記事が掲載されました。実は私の友人の会社にもその事業者からの営業があったそうで、「あれは一体どういう仕組みなのか？」と相談が以前ありました。報道によると、事業者が農園を法定雇用率が満たされていない企業(農園が本業ではない)に貸し、その農園で働く障害者を紹介して雇用してもらうというもので、その農園で栽培された作物は販売されず、子ども食堂や企業の従業員に配布されていると。事業者は人材紹介料や農園の賃貸料が収入となるようです。

「法定雇用率を売買している」とか「障害者雇用はコストではなく投資だという意識転換を図るべき」という批判の声もあれば「(障害者の)収入が増えるのだからよい」という声もあるなど賛否が分かれていて、厚労省も3月を目処に考え方の整理をすることになったとのこと。結局友人の会社では取引しないという選択をしたようです。

個人的には「まだまだ共生社会への道のりは遠いな」と感じながらも、我が身を今一度引き締めて「共に働き、共に暮らす」という地域づくりへの当初からの想いに立ち返りました。

コロナ感染者も急増し、閉塞感が続く日々ですが、いつか皆さんとお会いし、リフレッシュできる日を楽しみにしております。

本年もよろしく願いいたします。

○ 新年のご挨拶

協会実行委員・事務局 正光会御荘診療所 中野 良治

新年あけましておめでとうございます。

昨年は Web セミナーも開催でき、少しずつではありますが協会の活動も再開することができました。モニターの中ではありますが、皆さんの顔を拝見するとホッとします。

年が明け愛南町でもあちこちでコロナ陽性が。今年も影響が続きそうですが、皆さんもお身体には気を付け乗り切ってください。

年末年始は磯でした。
本年もどうぞよろしくお願
いいたします。



ー 編集後記 ー

新年あけましておめでとうございます。今年も皆様のご支援ご協力のもと事務局として活動させて頂いたく思いますので、宜しくお願いします。

新年号は例年通り協会理事・監事・実行委員から、新年を迎えて皆様へのご挨拶や抱負・夢・希望などを語っていただきました。

なかなか先の見えないコロナ禍ではありますが、昨年は Web セミナーという新しい形での繋がりを作ることができ、情報交換を 3 回実施することができました。第 1 回は「仕事づくり」というテーマで 4 地域に報告いただきました。第 2 回は「重度の人をどの様に支えていくか」でクロザピン活用の基礎からお話を頂きました。第 3 回は「協定福祉避難所について」で災害発生時の要配慮者の対応や実際の訓練状況などのお話でした。第 2 回 3 回は共に茨城県の町にくらす会からご報告を頂きました。そして 3 回とも 20-30 名の皆様にご参加いただき、質疑応答や各地からの実情報告など大変有意義な会が催せたのではないかと思います。

本年度も年数回の Web セミナーを継続して開催する予定です。上記のように割と少人数での Zoom ミーティングとなっておりますので、全員のお顔を拝見し全員のお声を聴きながら交流が深められるセミナーとなっておりますので、より多くの皆様のご参加をお待ちしております。

それから年賀状等で、多くの皆様から待ち望んでいるとご希望頂いている海外セミナーと対面での国内セミナーですが、With コロナの時代に入ると言われてはいますが、我々のセミナーは何れも余暇を利用してのスキルアップ・バーンアウト防止セミナーであるため、参加者の業務に差支えが出るような状況下での開催は控えるべきという考えを持っております。そのため本年度も Web セミナーが中心の活動になることが予想されます。関係者の皆様には事情をご理解いただいたうえで、更なる協会へのご支援・ご協力が頂けますと幸いです。(m.niki)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会